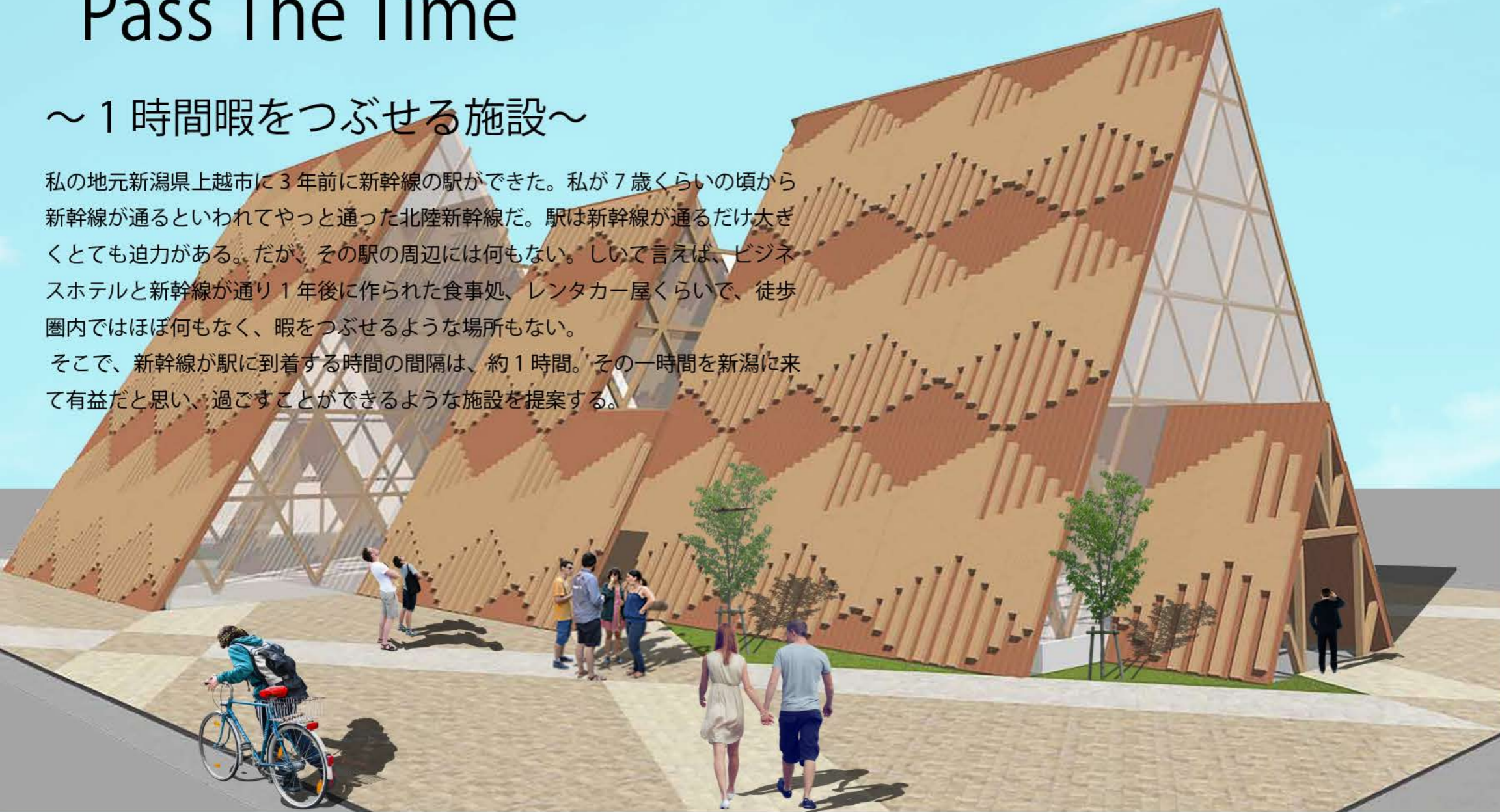


Pass The Time

～1時間暇をつぶせる施設～

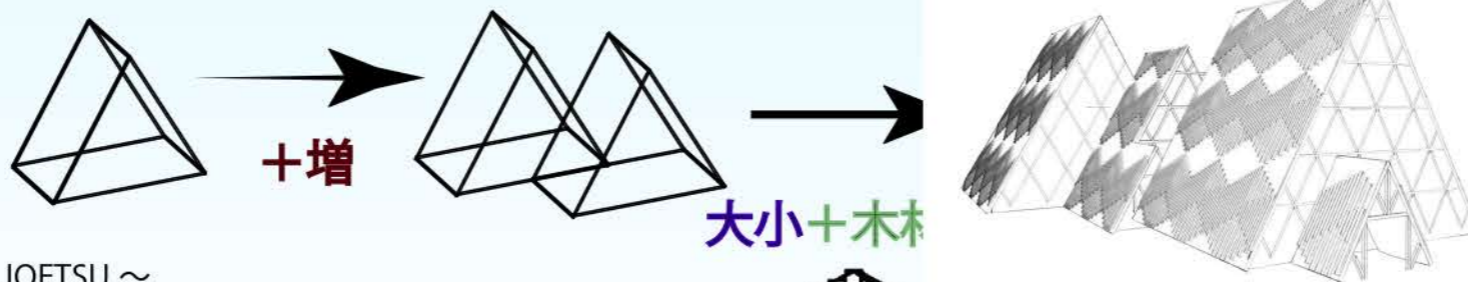
私の地元新潟県上越市に3年前に新幹線の駅ができた。私が7歳くらいの頃から新幹線が通るといわれてやっと通った北陸新幹線だ。駅は新幹線が通るだけ大きくとても迫力がある。だが、その駅の周辺には何も無い。しいて言えば、ビジネスホテルと新幹線が通り1年後に作られた食事処、レンタカー屋くらいで、徒歩圏内ではほぼ何も無く、暇をつぶせるような場所もない。

そこで、新幹線が駅に到着する時間の間隔は、約1時間。その1時間を新潟に来て有益だと思い、過ごすことができるような施設を提案する。



～気候の特性から～

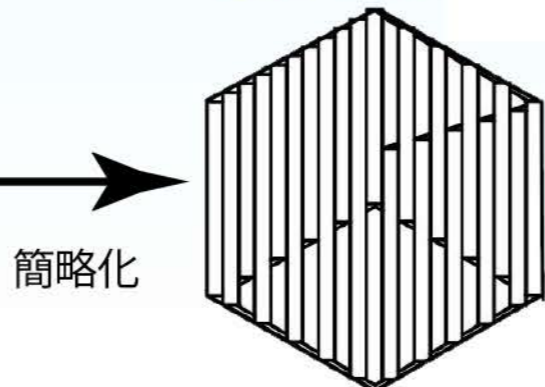
新潟県は他県より比較的多く雪が降るため、それに対応ができるように**三角形**という形にした。そこからその数を増やし、上越妙高駅に木が多く用いられていたことから木材を主とした建物とした。



～made in JOETSU～

このマークは「made in JOETSU」の認証マークによって、この地で生まれた工業製品や特産品であることをオリジナル性、信頼性、市場性、地域性などの観点から審査し、認証された製品のことを言います。

*インターネット引用

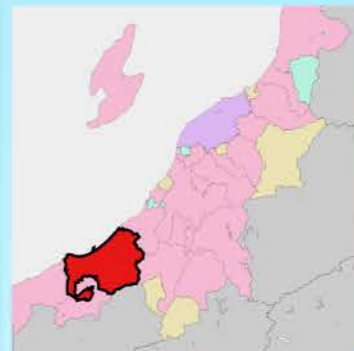


格子にも意味を持たせることでこの建物自体もどのような目的で建てられたかが理解できるようになっている。

～新潟県上越市とは～
今回の敷地である新潟県上越市は人口191,835人、面積973km²の新潟県南西部に位置する地域である。

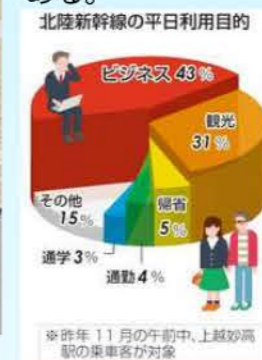


気候は、四季の変化がはっきりしており、冬期に降水量が多く豪雪地域としても有名である。そのため、春は桜、夏は蓮、秋は紅葉、冬は雪などと四季を肌で常にかんじることができる地域である。



～上越妙高駅とは～

上越妙高駅は新潟県上越市大和五丁目(旧脇野田駅)の土地に北陸新幹線が開業されるに当たって、改称された新幹線の駅である。



上越妙高駅の平日利用者は、約3900人であり、ビジネスが目的で利用する人が4割を超え、その次に多いのが観光目的の利用者の割合であった。

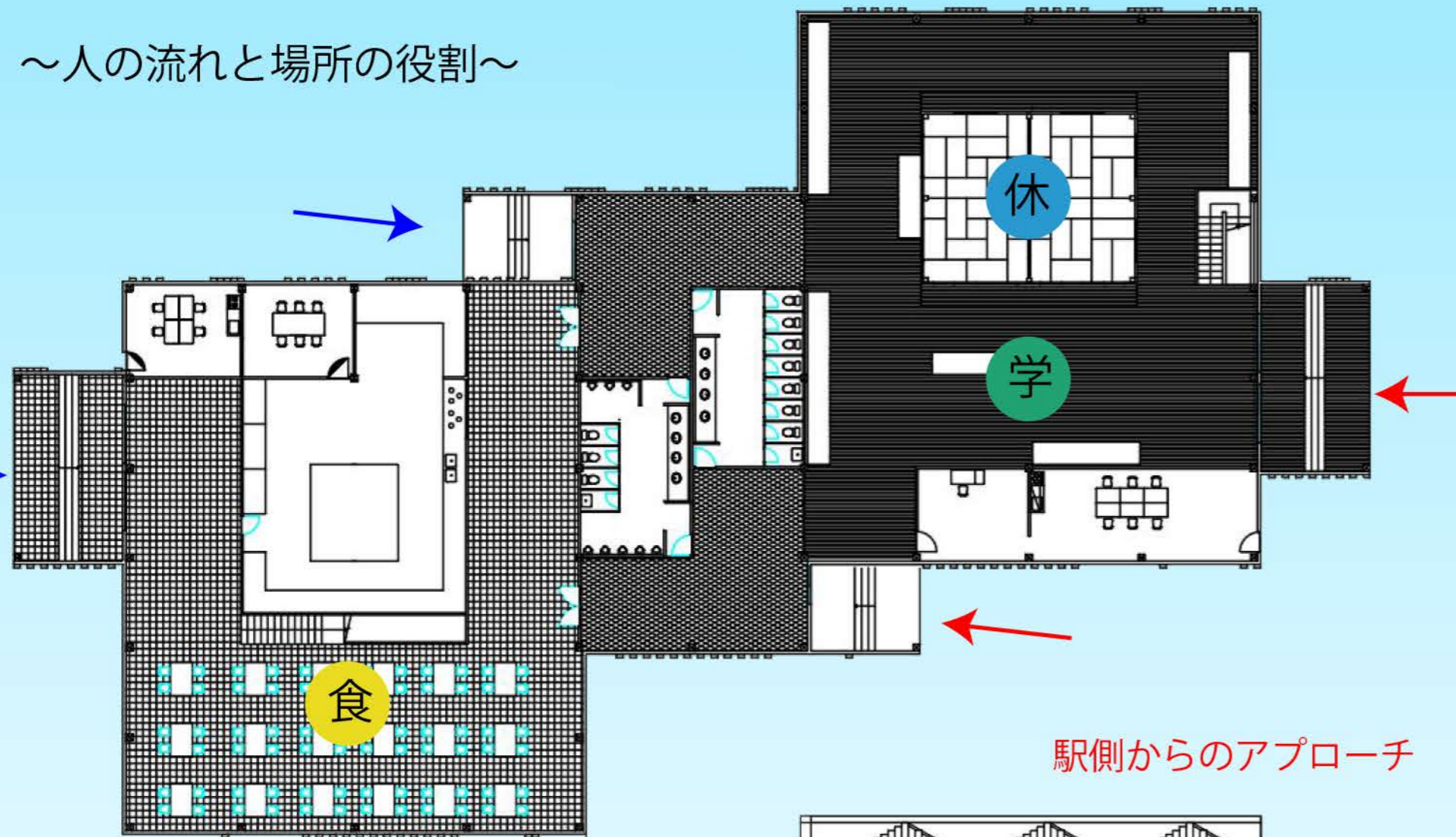
(2017年12月現在)

*インターネット引用

～上越妙高駅周辺図～

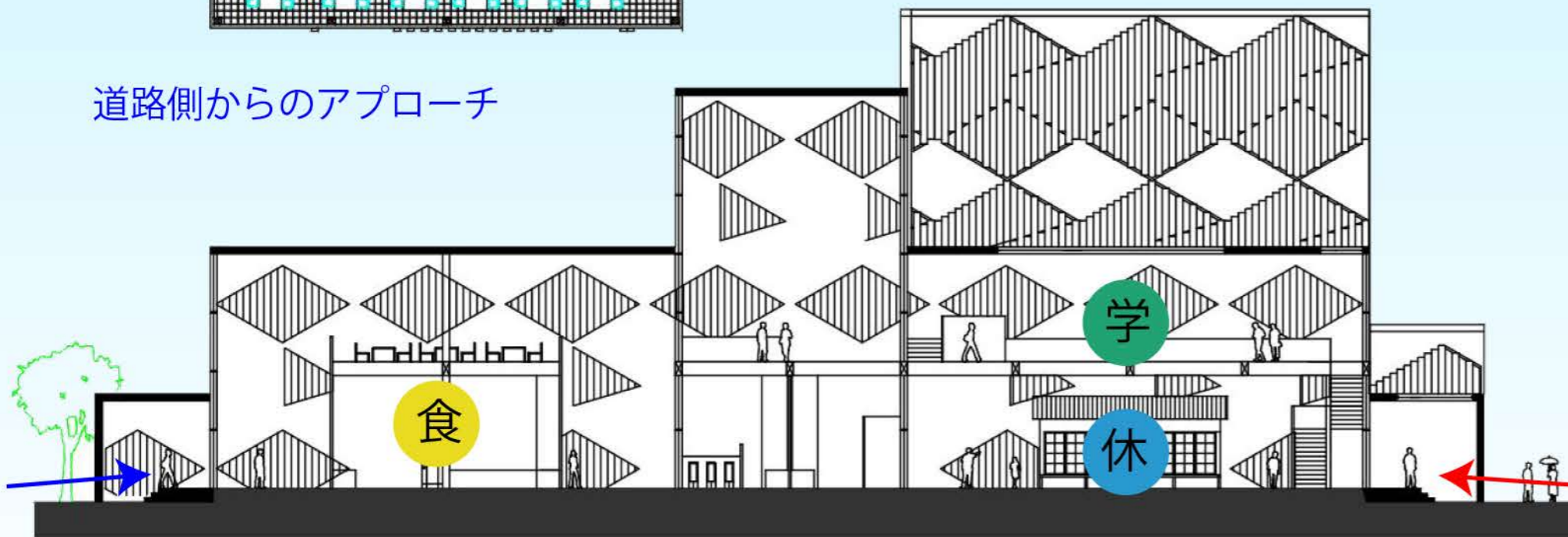


～人の流れと場所の役割～



道路側からのアプローチ

駅側からのアプローチ



道路側から見た建物



駅側からのぞいた「学」「休」スペース



道路側からのぞいた「食」スペース

食

食ではレストランで新潟の食べ物が味わえるようになっている。この辺りでは、新幹線の駅の近くであるにも関わらず、新潟の物産品が売られているだけで、それを食べれる店がない。そのため、新潟の名産品を時間帯によって様々なものを食べれるようにしたい。



学

学では小さな建物を囲うように二階まで資料を置いた。これは新潟の歴史を感じてもらえるようにするためである。これをきっかけに実際にその場所へ行ってもらうことができるような観光拠点としても役割を果たしたいと考えている。



休

休では、建物の中に小さな民家風の家を建てた。その中では半分囲炉裏で、半分が体験スペースとなっている。囲炉裏側はいつでも解放されていてゆっくりできるようになっており、反対側も体験会をしていないときは開放して休憩スペースとして利用できるようになっている。

